

2018年10月発行  
 社会福祉法人 ありのまま舎  
 (障害者自立企画)  
 発行責任者 高橋 治浩  
 編集責任者 白江 浩  
 編 集 佐藤 環  
 〒982-8544  
 仙台市太白区西多賀4丁目19-1  
 TEL022(243)1300  
<http://www.arinomama.or.jp/>  
 E-mail houjin-arinomama@globe.ocn.ne.jp

### 地域生活支援拠点「亘理ありのまま舎」 進捗状況／平成31年3月1日開所予定

今年1月に着工した新築工事もいよいよ、後半に差し掛かりました。これまで事故も無く順調に作業が進んでいます。

建物部分はコンクリートの打ち付けを9月末までに終え、建物の外観が見て分かる程度になりました。現地の工事事務所にて、月に2回業者との定例打合せがあり、状況報告や細部の打合せ等を行い、その都度図面に起こしていただき確認をしています。が、実際に現場を視察させて頂くと図面上とは違う、より実質的なイメージが湧いてきます。

今後は外壁の塗装と内部の壁や天井等の内装仕上げ、これと並行して水洗器具や電気設備等の設置があります。更に重度の障害や医療的ケアを要する方でも利用できる様、ストレンジャー式の寝台入浴装置を2ユニットへ、チェアリフト式入浴装置を1ユニットへ配備し、酸素ガスや吸引装置も12部屋に配備します。

また、災害等による停電の備えとして、ソーラーパネルと蓄電池を設置し常時30kWの電力の供給を行い、人工呼吸器等の医療機器を優先に使用を考えています。

防犯対策としては、建物内外へ計14台の防犯カメラと、消防や警察への通報と同時に警備会社による緊急対応が可能な非常通報装置を設置し安全確保に努めます。これらの設備工事を含め12月末に完成し、翌年3月の開設を予定しております。また利用を希望する方々の検討も開始いたします。

完成後には、内覧会を行いたく考えておりますので、地域の方々及びご利用をお考えの方、また、各関係機関の方々等、皆様にご覧頂ければ幸いです。



内装工事の様子  
(平成30年9月)

### 薫る風

大災害が続き、多くの方々の生命が犠牲となり、その数倍の人々がけがをし、財産そして仕事を失った人々は数知れない。災害の前では誰もが弱者だと、以前このコーナーで書かせて頂いた。ただ「障害」や「難病」あるいは「こども」「高齢の方」に配慮が必要なのは言うまでもない。災害が近づいていても十分な情報が得られにくい視覚や聴覚に「障害」のある人々(加齢に伴う場合も含めて)、外国人の人々。得られた情報を的確に判断し、次の行動へと繋げられない知的「障害」や精神「障害」、発達「障害」、そして子どもたち。自力では動けず、ひとり避難できない「身体障害」「難病や慢性疾患等」を含む病気の人々。たとえ避難できても、そこで特別な配慮がそれぞれに必要となる。それぞれの状態像を事前に想定して、全ての避難所での全てに対応することは難しい。そこで「災害時要援護者名簿」が事前に作られ、それをもとに地域の消防・警察・民生委員等の方々が連携し、対応する仕組みが以前からあったが、東日本大震災でも機能しなかった。福祉避難所も指定されているが、今回の災害で開設されなかったところもあった。

発災後の災害福祉支援ネットワークも整備されつつあるが、道半ばで課題も多い。いずれの体制も十分ではなく機能しても十分とは言えない状況の中で、日々いつ起きるか分からない災害に恐れながら暮らしている人々の何と多いことか。災害はまずは自助と言われる。しかし、個人でできることは本当に限られている。食料が届いても、アレルギー等配慮が必要な方への対応は十分ではない。配慮が必要な人々への支援のあり方は災害の都度、叫ばれても遅々として進まないのは、全ての人々が災害の前では弱者であることと、風化に原因があるように思う。

(白江)

### 県南エリア「コミュニティ地域生活支援拠点」「亘理ありのまま舎」求人活動と理念の実現に向けて

県南エリアコミュニティ地域生活支援拠点「亘理ありのまま舎」は2019年3月1日開所に向けて、新たにありのまま舎の一員となり共に同じ目標に向かって働いて下さる方を募集しています。

今年7月より毎月現地での説明会を開催しています。ありのまま舎の歴史や事業について映像で説明を行い、また開所から6年を迎えたサポートケア県南ありのまま舎難病・障害者相談支援センターの活動や亘理町の障害者福祉の現状、そして「亘理ありのまま舎」設置までの経緯について説明させていただきます。

現在「亘理ありのまま舎」は建設のため、ご希望の方は仙台市太白区にある障害者支援施設難病ホスピス「太白ありのまま舎」の見学をご案内しています。説明と見学で約4時間がかかりますが、亘理町を中心とした、県南エリアの方々に参加を頂きました。特に必要となる職種としては、日常の生活の中心を支えるケアスタッフ、そして入居者・利用者の健康を支え、医療的ケアの必要な方の対応を行う看護師、そして可能な限

り、今ある機能を残しながら生活して頂くために理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、入居者の栄養マネジメントや食事提供の中心となる管理栄養士を求めています。また地域の拠点であり、在宅へ訪問してケアを行うヘルパー・訪問看護師、理学療法士の方も必要です。

9月下旬に、求人のためのチラシを亘理町、山元町に新開折り返みでお届けしました。今後は県南地域の柴田町・大河原町等と範囲を広げて呼びかけていく予定です。チラシには直近の見学会の日程が記載されていますので、ぜひ地域に長く、大きく貢献できる亘理ありのまま舎開所に向けて多くの方のご参加をお待ちしています。(金子)



私たちと一緒に働いてみませんか？

### 「亘理ありのまま舎」オープンングスタッフ大募集！

平成31年3月開所予定 (現在建設中)

#### 【実施事業】

①施設入所支援 定員30名

②生活介護 定員50名

③居宅介護 重度訪問介護

④基幹相談支援センター

⑤訪問看護

⑥診療所

⑦短期入所

#### 【主な採用職種】

○ケアスタッフ

○看護師(訪問看護含む)

○理学療法士・作業療法士・言語聴覚士(訪問リハ含む)

○ヘルパー(居宅介護)

○勤務地 宮城県亘理郡亘理町

※採用予定 平成30年12月1日

※必要資格、給与、処遇等はお問い合わせください。

興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

採用担当 金子

022(281)1200

### 連載

### 県南エリア地域生活支援拠点への歩み⑨ 〜東日本大震災から現在へ〜

緊急時の対応が地域生活支援拠点の大きな役割となつていく。ご本人に予期せぬことや、普段支援している人に急な変化や予定が生じ、自宅等での生活ができない状況になった時、一時的に生活できる場があれば地域での生活に安心が生まれる。入居用に30の居室があり、ショートステイ用に5つの居室。その中に緊急用の居室が設けられる。それ以外に、4つの居室があり、災害時に居室でなければ生活できない人々のために日常的に確保することとしている。できれば「障害」や「難病」等のご本人・ご家族だけでではなく、地域の誰もが避難できる場になることを目指したい。様々な状態の方々への配慮も考えながら、設備(ソーラーを含む複数電源の確保等)・物資の備蓄(最低でも一週間)・人的体制(被災職員のことも含めた、地域全体での)。

それから進めたいと思っている。日常的な活動機能である入居・通所・在宅支援の3機能を非常時にも機能できるように整備したいと考えている。

その中核になるのが、基幹相談支援事業所だ。全市町村・福祉圏域に設けられ、今回の拠点整備に合わせ、亘理町の基幹相談支援をこの拠点に設置する方向で協議している。障害者相談支援事業所の中核的存在で、亘理町自立支援協議会の運営などにも関わることになる。その機能が本拠地に備われば、本拠点機能(先の3機能)と地域資源機能を繋ぐことが容易になると期待されている。すぐには無理かもしれないが、24時間365日の支援体制への一歩となることを目指している。(白江浩)



### 会報「自立」を発送するために ヴォランティアの方々のお力に感謝

400号を越える会報「自立」は、約34年前の発行当初より、折り込み作業を多くのヴォランティアの方々に支えて頂いています。

毎月中旬頃に自立ホームにて作業を行い、違う団体の方々が一堂に会するのですが、皆様とても和気あいあいと大変活気ある雰囲気の中で作業が行われており、逆に皆様から元気を頂いております。

関わった方々からは、「半年に一回しか参加できないけれど、ありのままの皆さんが変わらずに活動を頑張っている姿を目の当たりにする度、とてもホツとした気持ちになるのよ。」とお話し下さる方、毎月欠かさずお電話で「来月は何日に行いますか?」と問い合わせる方もいらつしやり、親身になって関わって下さっているのを肌で感じ大変嬉しく思っています。

お陰様で会報「自立」を通して私たちの思いを全国のご協力者の皆様へ伝えることができ、大きな力を頂いていることを思っています。

これからは亘理町の新拠点を始めとする様々な取り組みをより多くの方々へ伝えていく為に、

皆様のお力を引き続きお借りしたいと思えます。  
本当にありがとうございます。  
(鈴木一彦)

【お手伝いいただいている皆様】

日本基督教団東北教区宣教部婦人会の方々(月毎に担当教会を決めて2〜3教会がお越し下さいます。)

みやぎ生協生活文化部福祉・文化活動事務局様(広報誌等で呼びかけて下さりメンバーの皆様がご参加下さっております。)

その他、個人として毎月欠かさず駆けつけて下さるヴォランティアの方々。



自立ホームの談話室がとても賑やかになります。約6000通が全国へ発送されます。

### 【自立ホーム】

いのちを守る、避難訓練  
9月19日(水)

「ボイラー室から火事です!外に避難して下さい!」夜間を想定しベッドに横になった状態から宿直者1名による避難訓練が行われました。

現在7名の方が生活をしておられ、半数の方はスタッフの介助が必要な方です。年齢と共に重度化が進み車椅子に移乗して誘導する方が増えています。

「外に出るのが怖い。」「補聴器を外しているのでスタッフの音が分からない。」「前回の反省点があり、スタッフが車椅子を持つて外から避難誘導を行う方が聞こえない方には文字を書いたプレートを用意して火事であることを的確にお伝えする方法など個別の対応を実施しました。おひとりおひとりの動きを守る的確な避難誘導に努めていきたいと思えます。(佐藤環)



居室の窓から車椅子で外に避難誘導を行います。

### 【難病ホスピス 太白ありのまま舎】

東北大学医学部生が  
現場を体験  
9月7日(金)、14日(金)

今年も、東北大学医学部1年生による臨床医学修練(早期医療体験実習)として、9名の学生さんがホスピスを訪れました。医学の専門的な勉強を開始する前に、医療の現場を体験するということが主な目的です。

今回は、入居者の方の生活を出来るだけ見て頂くことを主に食事介助、日中活動、そして入浴介助の様子を見学していただきました。

ホスピス管理医の今野秀彦医師からの講話は、学生の方々からの感想を聞きながら進行しました。学生からは「入浴ケアの様子をみて、非常に大変な仕事であると感じました。」「障害・難病のある方といってもお一人お一人違って、合せた対応できるような学んでいきたい。」等の感想がありました。  
「病気を見る前にまず患者さんを見る。」という今野医師からの助言に頷いている姿が印象的でした。  
(金子)



### 停電の備え(電気設備工事)

9月26日(水)

太白ありのまま舎では、昨年からの2度の停電が発生している事から、電気設備の一部である「高圧気中開閉器」の交換工事を実施しました。この機器は電力会社の電柱から敷地内へ電気の引込み口にあたり、施設で電気事故が発生しても近隣への波及を防ぐ重要な役割を担います。工事は約5時間の停電を要し、その間は通信関係の断絶と貯水槽のポンプ停止による断水となります。更に重度の障害を持つ方が使用する、人工呼吸器や吸引機等の医療機器も使用できなくなりそうです。停電時には、東日本大震災後に導入したソーラーパネルと蓄電池を活用し、施設内6カ所の専用コンセントから延長コードを用いて医療機器等を優先に接続します。また断水の対応は浴槽に水を汲み置きします。通信関係においては災害時優先携帯電話や衛星電話、仙台市防災無線等を用いて関係機関との連絡を行います。

これまで急な停電でも職員への対応により大事に至りませんでした。日頃より訓練も兼ねた対応を行い、全ての職員が万全の対応出来る様に備えておきたいと思えます。  
(高橋英美)

【サポートケア仙台ありのまま舎  
(難病・障害者相談支援センター)】

身体に障害のある相談者の方の中で、施設を出て暮らしたいと希望している方がおられます。現在受けている医療的・身体的ケアに加え、金銭管理や成年後見制度の利用も検討していかねければなりません。ご本人は住居やヘルパー利用について検討されておられます。

ご本人の思いを聞いてからまず取り掛かったことは貯金でした。身体障害者手帳の等級などによっては、住宅改修やベッド購入の補助を受けることができず、その他ご自身で準備しなければならぬものも多くあり、お金が必要です。毎月使うお金を決め、買い物や外出先で使うお金を考えながら、貯金をしています。

貯金だけでなく、住居や保証人などまだ多くの課題がありますが、一つ一つ課題をクリアしながら、ご本人が心身共に落ち着いて、望んでいる生活ができるよう一緒に考えていきたいと思えます。(石黒)



【サポートケア県南ありのまま舎  
(難病・障害者相談支援センター)】

不慮の怪我により入院中の相談利用者と病院相談員より、今後の生活面全般のご相談をいただいている中で、ピアカウンセリングに興味を持たれ、同じ障害のある方から是非色々な話を聞きたいので場作りをしてほしいとの希望をいただきました。

相談利用者の中にたまたま障害状況や年齢に近い方がおられ、その方にピアカウンセラーの役割を依頼し、遠慮するその方をほぼ無理やりのように同行頂いて病院内で面談を行いました。次々と質問を出される利用者の声に直球で回答するやり取りが展開されました。とても生き生きと質問する利用者の横に座っていた家族も表情がみるみる明るくなり、改めて言葉の重さや心への伝わり方を感じました。

そして、カウンセラー役を担っていたいただいた方からの一言が利用者の表情をとんでも明るく変えました。「なぜ全部自分でやらないといけないと思うの？周りにいる家族や会社の同僚、時にヘルパーさんなどにできないことを助けてもらえばいいじゃない」。この言葉に対して「そうなんだ」と頷いておられました。(齋藤)

【サポートケア名取ありのまま舎  
(難病・障害者相談支援センター)】

今月号も芸術活動を楽しませている30代女性のMさんの作品をご紹介します。通っているパソコン教室でデジタルプリントTシャツを制作することに、ご本人は絵画が得意だったため、オリジナルの絵をプリントすることにしました。そう、「夏」というテーマから「和」を連想し、浴衣を着た着物美人を表現しています。



カラーでお見せできないことが残念です。画材は色鉛筆で、濃淡をつけて丁寧に仕上げられています。背景は赤ベイス、着物はグリーン系の色で彩られています。着物や帯の柄は下書きをせずにご自分でアレンジをされたそうです。選色や塗り方は優しく細やかなMさんのお人柄を映し出しています。また、この女性の眼差しはご本人の芯の強さをも投影しているように感じます。(澤田石)

「協力ありがとう  
」ございました(敬称略)

【本部】  
会報発送のための糊付けを、仙台西高等学校JRC有志・東北学院榴ヶ岡高等学校音楽部・個人の方々にお手伝いいただきました。

折り込みは、みやぎ生協のメンバーのみなさま、日本基督教団東北教区婦人会の仙台川平教会・いずみ愛泉教会のみなさまの他、たくさんの方々の個人の方々にお手伝い頂きました。お陰様で全国のご協力者の皆様へ約6000通を無事にお送りする事ができております。

【自立センター】  
バザー会場やショップセールでは、個人の方々にお手伝いいただいたいております。

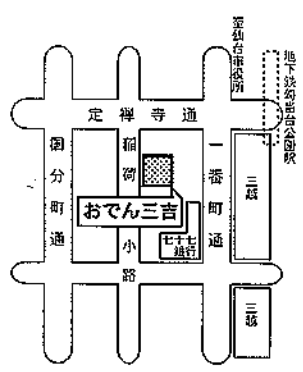
【難病ホスピス】  
宮城県車いすダンス協会には、車いすダンスを通して「笑顔」や「喜び」を分かち合える機会をつくって頂いております。また、仙台シルバーネットの皆様には、「読書会」を開いて頂き、茂庭台ボランティアグループには、「気ままに書く会」を開いて頂いております。過ごしやすい季節、皆様よりのお力をお借りして、より良い活動を目指して参ります。(鈴木一彦)

# おでん 三吉



店主 田村忠嗣

(稲荷小路)  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目10-8  
電話 022(222)3830  
FAX 022(222)3894  
http://www.odan-sankichi.com/



先着10名の方に

書籍プレゼント!

《今日まで最終締め切り》

「いのちを語る手記集」③

この手記集には33名の当事者と12名の「家族やヴォランティアの方」などの手記が掲載されています。

お母様が亡くなられた娘さんの日記を綴ってくださいました。

「10月23日 今思っていることを正直に書きます。私は多分かなり不幸な人だと思っ。看護師になりたいと思っ。高校時代頑張ってきたのに、その間もずっと歩けなくなるかもしれない病にむしばまれていたと思っ。いとたまれない。(中略) でも今回私は強くあろうと決めた。親の前でも泣き言は言わない。と思っても八つ当たりとかするんだったら。」

3月12日 やっぱり悪性でした。(中略) 神経肉腫って例が少ないんだって。何でこんなことになっちゃったんだらう。ダメだこんな事考えちゃ!

3月21日 お父さんとお母さんが来た。二人ともずつと脚やら腰をさすっていた。抗癌剤は外れたけど尾を引いてまた吐いた。健康になりたいとつくづく思っ。

5月12日 19階で脚がしびれながら昼食会をした後部屋に戻った。私は横になってお母さ

んが荷物を片付けてくれた。その後久々に体拭きをした。

『日記はここで終わっています。(中略) 22日の夜に大好きな梅ジュースをおいしそうに飲んで3時間後には天国に旅立ってしまいました。』

私の携帯電話には娘からのメールが残っています。

「私、病気になるって良かったって思っ。事が一つだけある。病気になるって家族の大切さが身にしみた。私、この家族に生まれ育って良かったと思っ。ありがとう。」

この手記集は聖路加国際病院の故日野原重明さんより巻頭言をお寄せいただきました。

皆さまにたくさんのご応募いただきありがとうございます。次号より「いのちのキャッチボール」をご紹介、プレゼントとさせていただきます。

★お名前・ご住所・連絡先を明記の上、お電話・FAX・メールでお申込ください。  
★送料300円はご負担いただきます。(切手)  
★発送を以って代えさせていただきます。



「ご支援頂きありがとうございます。ありがとうございました(敬称略)」

「ボトルカンパありがとうございます。ございました(敬称略)」

18 7/24 ~ 9/23  
ありのままショップ (太白区) 3,981円

「巨理ありのまま舎建設に「協力」の呼び掛けに関心をお寄せ下さる方が増えて参りました。大変心強く思います。(鈴木一彦)」

「バザー開催日のご案内」

- 10月
- 18日(木) ヨークベアマル新田東店 (宮城野区)
- 25日(木) 鶴ヶ谷生鮮いちば (宮城野区)
- 27日(土) ありのままショップセル (仙台ありのまま舎)
- 30日(火) 袋原(同日) 荳子フーフ (サポートセクター・太白区)
- 《11月》
- 6日(火) ヨークベアマル山田鈎取店 (太白区)
- 8日(木) 鶴ヶ谷生鮮いちば (宮城野区)
- 11日(日) 仙台北教会バザー出店 (宮城野区)
- 13日(火) ヨークベアマル南宮成店 (宮城野区)
- 15日(木) ヨークベアマル新田東店 (宮城野区)
- 20日(火) ヤマザフ成産店(太白区)



バザー会やショップで販売する箱入りタオル、日用雑貨、食品類を集めています。ご協力をお願いします。

在宅介護を応援します!!



〒982-0031 仙台市太白区泉崎1丁目34-16  
Tel・Fax 022-743-3161